

高等学校 「総合的な探究の時間」 シラバス

「3年間のねらい、学習目標」

大工になろうと思えば、家や材料についての知識、道具の扱い方、家の建て方を学ばねばならない。親方（師匠）について、弟子として大工の基礎基本を学ばねばならない。高等学校の教科学習の基本原理は、大工の修行と同じである。国語や数学、理科、地理歴史、家庭などの一般的な各教科の授業は、それぞれの教科の背景にある特定の学問分野の基本的かつ重要だと考えられる内容や技能を高校生が発達の程度を考慮して、再編成し、学習者にそれらの習得を促すものである。換言すれば、各学問分野の基礎的なテーマ、成果としての知識・理解、大切だと考えられている勉強方法、応用の仕方など、各学問分野の知識と作法を、各学問分野の枠組みの中で、各学問分野の専門家である教員について習うという性格が強い。

では生徒はみな大工になるのか。あるいは国語や数学、理科や地理歴史、家庭の専門家になるのか。変化の激しい世の中であって、今ある職業の多くは機械・ロボット・AIに置き換えが進むと考えられているし、今はない多くの職業が生まれると考えられている。建築技術の進化ははやく、大工になるにしても師匠と同じ知識や技術を身につけるだけでは時代遅れになる。各教科の背景にある学問も日々進化しており、特定の分野の専門家になるなら、その分野の到達点を理解し、基本的アプローチを身につけることは必要不可欠だが、それだけに満足しては、その分野の専門家としては不十分である。何より日々新しい学問分野が生まれている。

変化の激しい時代に生きている私たちや諸君は、自分のテーマが何であり、それに対して現在までの到達点が何かを把握し、到達点の隙間を探して未解決の課題に挑むということを、その時々の変化や科学技術の発展に応じて、一生続けていく必要がある。特定の分野の専門家を志すにしても、いくつかの分野の成果やアプローチを総合したり、取捨選択したりして新しい分野や価値の創造をめざすにしても、である。

私たち教員は、探究マインドを持ち、受け持つ生徒の特性と将来性に配慮したカリキュラムデザインができるようになるべきだと言われて久しい。「総合的な探究の時間」では、各教科の専門家の末席に連なる私たち教員が今までに習った知識や勉強・学問の方法を高校生にもわかるようにアレンジして、その習得をめざしてもらおうという授業や学習のスタイルからの脱却をめざしている。教員の専門分野に関心を持つなら、その教員の持つ知識や成果、アプローチを超える何かに到達できるようになって欲しい。しかし、多くの生徒諸君は実際には、教員とはどこか違った感性やこだわりのなかで生まれ、日常生活を送っているのではないかと。生徒諸君の個別の関心や問題意識の中に新しい価値、新しい職、新しい知の創造、諸君と人類の未来を切り開く重要な手がかりがあると、私たち教員は確信している。

最初のたとえに戻るなら、生徒諸君は、スーパー大工になってもよいし、今までの大工がしてこなかったような、環境デザインや、社会文化、人間工学、あるいはアートなどとコラボする新世代の新しい職を生み出してもよい。そのためには、既存の知の枠組みの成果を継承することだけに安住してはダメで、自らの関心を核に、何が背景となる知識基盤・成果なのかを確認した上で、新しい課題を設定し、それを解くためのアプローチを自ら定め、成果を他に知らしめるという訓練が必要である。目的、目標、内容や方法、成果の他者との共有まで含めて、反復・発展させながら自立的に学べるようになること、それを習慣づけること、そして、失敗しても軌道修正しながら次の学びに向かえるようになることをめざす。

第1学年	教科書	なし
総合的な探究の時間 (1単位)	副教材	Locus『探究テキスト』(マイナビ) Locus『探究ワークブック』(マイナビ) など

学習到達目標

探究的な見方・考え方を働かせ、社会、地域で起きている様々な課題について知り、自己の将来と職業や学問と関連づけて、課題解決方法を自分で考えることができるようになる。

- ①提供される企業や公共団体、その他の法人等の具体的な問題状況に即して、社会、地域で起きている様々な課題を発見することができるようになる。

- ②例示される探究的な手法を理解し、運用することができるようになる。
- (2) ①提供された事例について、課題を設定し、習得した手法の中から適切なものを選択・活用して、課題の解決に向けて、運用できるようになる。
- ②①について、適切な方法を用いて、その過程を説明することができる。
- (3) 提供された事例に関して設定した課題の探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、積極的に社会に参画し、貢献しようとする態度を養う。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	<p>①提供される企業や公共団体、その他の法人等の具体的な問題状況に即して、社会、地域で起きている様々な課題を発見することができる。</p> <p>②代表的な探究的手法を理解し、運用することができる。</p>	<p>①提供された企業や公共団体、その他の法人等の具体的な問題状況に即して、個別の事例について、課題を設定し、習得した手法の中から適切なものを選択・活用して、課題の解決に向けて、運用することができる。</p> <p>②①について、適切な方法を用いて、その過程を説明することができる。</p>	<p>提供された企業や公共団体、その他の法人等の具体的な問題状況に即して、設定した課題の探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、積極的に社会に参画し、貢献しようとする態度を備えることができる。</p>

学習方法

- (1) 人の着想とその背景、人の解決方法とその到達点、課題を考える。
- ① 人はある課題について、抱えている問題状況をどうしたいと考え、どのような取り組みを行ってきたのか、そこにはどのような課題が残されているのか、先駆者の立場に立って考えて見よう。
- ② 先駆者の課題を自分が解決するとすれば、どのような手段を用いることができるか、可能な限り具体的に考えてみよう。
- (2) 適切な情報収集の方法を身につけ、運用できるようになる。
- どのような課題であっても、誰かが一度は部分的に同じような、あるいは近い問題意識を持って考え、解決を試みたことがあるはず。それをどのような手段で収集し、整理すれば良いのか適切な方法を身につけよう。
- (3) 適切な探究課題の設定と、適切なアプローチの選択を。
- みんなにとって大切でも、解決できない課題はある。もし、あなたが課題だと考えることに、先駆者がいない、先行研究や参考文献が見つからないなどということがあれば、その理由を考えて見ることが大切。例えば、難しいテストで全員が100点をとる方法があるだろうか？それを探究課題とするのは、課題の設定の仕方に問題がある。目撃者も監視カメラもない事件について、その事件がどのような事件であったのかを証明するために目撃証言を探すことは原理的に不可能である。つまり、探究が上手くいき、成果を上げることができるかどうかにとって重要なのは、探究するのに適切な課題を設定し、適切なアプローチを選択するかどうかにかかっている。
- (4) 適切な表現方法を身につけ、人に説明できるようになろう。
- 自身の着想や、問題意識、解決の過程を人に説明できるようになることは大事。一緒に取り組んでくれる仲間を見つけ、説得する。スポンサーを探す。いずれにせよ、自分自身の行っていることの意義を示すのはあなた自身以外にない。自分が何を問題意識に、どのような課題を設定し、どのような方法でその解決を試みているのか、説得力を持って語れるようになろう。
- (5) 協働して課題の解決ができるようになろう。
- 問題意識を深める。アイデアを借りる。意見を聞く。作業を分担する。課題解決に自分自身が貢献することは大切だが、それが独りよがりになっていないか、自分のやり方が適切か、魅力があるかなど、人を巻き込み協働することで、探究はより意義のあるものになるだろう。
- (6) 自身のこだわり、着想を大切にしよう。
- よく似た問題状況や問題意識、課題を抱えていても、あなたと同じまったく同じ環境、まったく同じ条件の下に、まったく同じ性格で、好き嫌いも得意なことも一緒などという人間はどこにもいない。あなただけのオリジナリティが必ず見つかるはず。それがあなたの武器になり、強みになり、魅力になり、存在意義になる。大学の推薦入試の口頭試問や就職の面接で、志望動機に「探究」の過程や成

果を糸口にして、自身の当該分野への関心を述べることができるようになれば、なお良い。

(7) 社会的有用性? それはどうした?

あなたの課題探究が社会的有用性をダイレクトに追求し、誰かを幸せにしたり、誰かの困難を解決したりするものであれば、もちろんそれはすばらしい。だが、新しい知の発見は、社会的な問題の何かを直接すぐに解決するものでなかったとしても、それ自体が人類の知の蓄積に対する貢献である。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

第1学年<週1時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 「探究」とは? (事例探究①) ・導入講演(導入動画) ★1 (大きな課題の設定) ・問いの立て方 ・情報収集 ・課題を特定する視野 ・整理・分析の考え方 ・整理分析の手法 ・探究課題の絞り方 ・情報収集ワークショップ①	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介される社会的課題の事例に則して、試行錯誤して課題を発見することができる ・以下の、基本的な探究手法について理解し、活用することができる ・課題の把握、問いの立て方、課題の特定と絞り込み、情報収集、整理分析の手法、議論の仕方、探究過程の表現・発表 ・探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、積極的に社会に参画し、貢献しようとする事ができる 	<p>【評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究に必要な知識、課題発見・設定、課題解決の技能 ・探究手法の適切な選択・判断・表現 ・探究に主体的に取り組む、積極的に知的貢献・社会的貢献を図ろうとする態度
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスの基本 ・整理・分析ワークショップ① ・議論のワークショップ① ・まとめ・表現方法① (ポスター発表) 		<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査は実施しないが、授業に取り組む姿勢、『探究ノート』、提出物、成果報告(発表・レポート他)等を総合的に判断する。 <p>※平常成績の総点の算出には含まれないが、具体的な提出物や成果物が提出できない場合、個人報告書の「総合的な探究の時間」の欄に記載できる事項がなくなる可能性もある。</p>
3 学期	2. 事例探究② ★2 ・似ているところ、ちがうところ ・テーマ設定 ・問いの設定 ・情報収集ワークショップ② ・整理・分析ワークショップ② ・議論のワークショップ② ・プレゼンテーション①	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介される社会的課題の事例に則して、学習内容・項目1.の既習事項の反省をふまえて、試行錯誤して課題を発見し、探究することができる ・以下の、基本的な探究手法について理解し、適切な手法を選択・判断して活用することができる ・課題の把握、問いの立て方、課題の特定と絞り込み、情報収集、整理分析の手法、議論の仕方、探究過程の表現・発表 ・探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、積極的に社会に参画し、貢献しようとする事ができる 	
	3. 事例探究③ ★3 ・似ているところ、ちがうところ ・テーマ設定 ・問いの設定	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介される社会的課題の事例に則して、学習内容・項目1.2の既習事項の反省をふまえて、試行錯誤して課題を発見し、探究することができる ・以下の、基本的な探究手法について理解し、適切な手法を選択・判断して活用することができる 	

<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査法 ・整理・分析ワークショップ③ ・プレゼンテーション② 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の把握、問いの立て方、課題の特定と絞り込み、情報収集、整理分析の手法、アンケート調査の手法、探究過程の表現・発表 ・探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、積極的に社会に参画し、貢献しようとする事ができる 	
--	--	--

★ 1～3 Locus プログラム (マイナビ社提供) より、日本環境設計株式会社、前橋市産業政策課他 13 団体・法人・企業等より適宜事例を選択する。

第 2 学年	教科書	なし
総合的な探究の時間 (1 単位)	副教材	Locus 『探究テキスト』 (マイナビ) Locus 『探究ワークブック』 (マイナビ) など (1 年次より継続)

学習到達目標

自身の関心を核に、探究的な見方・考え方を働かせ、各教科の学習内容を超越する課題について知り、自己の将来と職業や学問と関連づけて、適切な課題解決方法を構想することができるようになる。

- ①自身に固有の探究課題を発見することができるようになる。
②例示される探究的な手法を身につけ、適切に選択し、運用することができるようになる。
- ①提供された事例に関する課題探究のあり方を参考に、自身の課題の解決を構想できるようになる。
②①について、適切な方法を用いて自身の構想を説明することができる。
- 自身の設定した課題の探究的な学習に主体的かつ協働的に取り組むとともに、積極的に社会に参画し、貢献しようとする態度を養う。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	①自身に固有の探究課題を発見することができる。 ②例示される探究的な手法を身につけ、適切に選択し、運用することができる。	①提供された事例に関する課題探究のあり方を参考に、自身の課題の解決を構想できるようになる。 ②①について、適切な方法を用いて自身の構想を説明することができる。	自身の設定した課題の探究的な学習に主体的かつ協働的に取り組むとともに、積極的に社会に参画し、貢献しようとする事ができる。

学習方法

基本的な学習方法は第 1 学年に同じ。ただし、第 1 学年次と異なり、最終的には一人一人が共通の探究事例から離れて課題設定を行うことになる。自由度は増すので、より柔軟に自身の問題関心に引きつけて学びを進めることが可能になる反面、自立的な学びに責任を負うことになる。

年間シラバス (1 年間の学習予定表)

第 2 学年 < 週 1 時間 >

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	4. 事例探究④ ★ 4 ・テーマ設定 ・問いの設定 ・情報収集ワークショップ④ ・調査手法を深める	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介される複数の社会的課題の事例について、自身の関心に応じて領域・対象を選択し、試行錯誤して課題を発見することができる ・以下の探究手法について理解し、活用することができる 	【評価の観点】 <ul style="list-style-type: none"> ・探究に必要な知識、課題発見・設定、課題解決の技能 ・探究手法の適切な選択・判断・表現

2 学期	文献調査 インタビュー調査 フィールドスタディ 実験 数的調査と質的調査 など	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の把握、問いの立て方、課題の特定と絞り込み、情報収集、調査の手法（文献調査・インタビュー調査・フィールドスタディ・実験・数的調査・質的調査など）整理・分析の手法、議論の仕方、探究過程の論文化 ・学習内容・項目 1. 2. 3. の既習事項の反省をふまえて、試行錯誤して課題を発見し、解決を構想することができる ・探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、積極的に社会に参画し、貢献しようとするすることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・探究に主体的に取り組む、積極的に知的貢献・社会的貢献を図ろうとする態度 ・定期考査は実施しないが、授業に取り組む姿勢、『探究ノート』、提出物、成果報告（発表・レポート他）等を総合的に判断する。 ※平常成績の総点の算出には含まれないが、具体的な提出物や成果物が提出できない場合、個人報告書の「総合的な探究の時間」の欄に記載できる事項がなくなる可能性もある。
	5. 固有の関心に基づく探究課題の設定 （卒業研究テーマの構想と検討） 配属ゼミの配分・決定		
3 学期		<ul style="list-style-type: none"> ・自身の関心に応じて領域・対象を選択し、試行錯誤して固有の課題を発見することができる ・学習内容・項目 1. 2. 3. 4 の既習事項の反省をふまえて、試行錯誤して課題を発見し、必要な手法を選択して、解決を構想することができる ・自身の課題解決に向けた構想について、適切に表現し説明することができる ・探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、積極的に社会に参画し、貢献しようとするすることができる 	

★4 Locus プログラム（マイナビ社提供）のコンテンツを活用し、各自が関心の持てる事例を選択する。

第3学年 総合的な探究の時間 (2単位)	教科書	なし
	副教材	特に指定せず

学習到達目標

自身の関心を核に、探究的な見方・考え方を働かせ、各教科の学習内容を超越する課題について知り、自身の将来と職業や学問と関連づけて、適切な課題解決方法を構想することができるようになる。

- (1) 自身に固有の探究課題を発見し、その解決に必要な探究的手法を適切に選択し、運用することができるようになる。
- (2)① 自身の課題の解決について、必要に応じて構想や解決に必要な探究的手法を適切な方法で説明し、再調整できるようになる。
- ②自身が設定した課題について、解決過程と結果の総括を、適切な手段で説明することができるようになる。
- (3) 自身の設定した課題の探究的な学習に主体的かつ協働的に取り組むとともに、積極的に社会に参画し、貢献しようとする態度を養う。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ力・人間性等
評価規	自身に固有の探究課題を発見し、その解決に必要な十分な探究的手法を適切に選択し、運用す	① 自身の課題の解決について、必要に応じて構想や解決に必要な探究的手法を適切	自身の設定した課題の探究的な学習に主体的かつ協働的に取り組むとともに、積極的に社

準	ることができる。	な方法で説明し、再調整できるようになる。 ②自身が設定した課題について、解決過程と結果の総括を、適切な手段で説明することができるようになる。	会に参画し、貢献しようとする ことができる。
---	----------	---	---------------------------

学習方法

基本的な学習方法は第1学年・第2学年に同じ。ただし、最終的には一人一人が共通の探究事例から離れて課題設定を行うことになる。更に自由度は増すので、より柔軟に自身の問題関心に引きつけて学びを進めることが可能になる反面、自立的な学びに責任を負うことになる。また、各ゼミ担当教員の助言のもと、それぞれの課題について、より説得力のある効果的な手法を選択して課題解決に取り組むことが重要になる。

大学の推薦入試では、口頭試問のなかで、自身の学問的関心について説明することが求められる。本科目における探究活動への取り組みを通じ、結果として、その取り組みに関連づけて、具体的な自身の学問に対する関心を説明できるようになると良い。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

第3学年<週2時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	6. 卒業研究 固有の関心に基づく課題探究の実行と成果の総括 ・構想に基づく資料収集 ・卒業研究テーマの確定 ・卒業研究の実行 調査・分析・整理 ・中間報告 ・計画の再検討・再構想	・自身に固有の探究課題を発見し、その解決に必要な十分な探究的手法を適切に選択し、運用することができる。 ・自身の課題の解決について、必要に応じて構想や解決に必要な探究的手法を適切な方法で説明し、再調整できる。 ・自身が設定した課題について、解決過程と結果の総括を、適切な手段で説明し、共有可能なものとする ことができる。 ・探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、積極的に社会に参画し、貢献しようとする ことができる。	【評価の観点】 ・探究に必要な知識、課題発見・設定、課題解決の技能 ・探究手法の適切な選択・判断・表現 ・探究に主体的に取り組む、積極的に知的貢献・社会的貢献を図ろうとする態度
2 学期	・卒業研究の実行 調査・分析・整理の修正・補足 ・卒業研究のまとめ 報告 成果概要の執筆		・定期考査は実施しないが、授業に取り組む姿勢、提出物、成果報告(発表・レポート他)等を総合的に判断する。 ※平常成績の総点の算出には含まれないが、具体的な提出物や成果物が提出できない場合、個人報告書の「総合的な探究の時間」の欄に記載できる事項がなくなる可能性もある。
3 学期	以上をゼミ担当教員の助言のもと自立的に実行する		